

秋田魁新報 2022年10月15日付 秋田市

お金の循環”働いて”学ぶ

高校生が社長や上司役、小学生が社員役となって就業体験する「キッズビジネスタウン」が14日、秋田市新屋の秋田商業高校で行われた。同校の生徒が仕事を教え、勝平小（同市）の6年生約30人が働いて給料を得るとして、社会の仕組みを学んだ。



タウン内で提供するたこ焼きを協力して作る上司役の生徒と、社員役の児童

秋田商業高が市内外の小学 生を招いて2008年から毎年行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、飲食関係の各種の求を見比べながら、自分が就きたため今年は3年ぶりの開催と

秋田商高で就業体験 勝平小6年生、社員役



タウン内で使える通貨で購入した商品を食べる児童

仕事29種、高校生が指導

場ブースで高校生たちから指導を受けた。テレビブースで映像編集をした草野賢雄君（17）は「字幕をつけるのが大変だった。裏で仕事を語っている大人がいっぱいいるんだと思った。考査センターブースで土器の復元をした阿部暖土君（17）は「みんなのために働くのは楽しい」と笑顔を見せた。



児童は仕事を終わると銀行ブースで給料を受け取った

新聞社ブースで社長役を務めた秋田商業高3年の高橋梨さん（17）は「相手に仕事内容や自分の考えを伝える難しさが分かった。税務署ブースで受付を担当した同1年の三村桜輝さん（16）は「仲間と協力して仕事をすることでチームワークを学べた」と充実した表情を寄せた。児童たちは仕事を終える、銀行ブースで給料として、キッズビジネスタウン内で使える通貨を受け取った。バス、タクシーなど飲食店ブースで購入したものを食べたり、給料に合わせた税金を税務署ブースで払ったりして、お金の循環について学んだ。キッズビジネスタウンは秋田商業高の「ビジネス実践」教育の一環。就業体験はきょう15日も県内の小学3年約190名を招いて行う。また、JR秋田駅前入居棟通りのはずれ1丁、市民市場では、同校生徒が企業と連携し、開設したお菓子店の商品を販売する「AK&HOP P-テキショップ」を開催する。午前9時～午後3時。（原田大生）

©秋田魁新報社